

宇宙開発の現状報告

(平成 19 年 3 月 1 日(木) ~ 平成 19 年 3 月 13 日(火))

平成 19 年 3 月 14 日
宇宙開発委員会事務局

宇宙開発に関する国内の動向

3 月 13 日(火)

- 「きぼう」日本実験棟船内保管室、米国に到着
【独立行政法人宇宙航空研究開発機構】

2 月 7 日(水)に横浜港を出港した「きぼう」日本実験棟船内保管室が、米国航空宇宙局(NASA)ケネディ宇宙センターと隣接するポートカナベラル港に到着した。船内保管室は、今後、ケネディ宇宙センターの宇宙ステーション整備施設(SSPF)に運ばれ、打上げに向けた準備作業を行う。

当船内保管室は、土井隆雄宇宙飛行士が搭乗する「きぼう」打上げ1便目のスペースシャトル(STS-123)にて打ち上げられ、国際宇宙ステーション(ISS)に取り付けられる予定。

宇宙開発に関する海外の動向

3 月 1 日(木)

- NASA 長官、有人宇宙船「Orion」打上げは 2015 年にと議会で証言
【米】
2 月 28 日(水)(現地時間)、米国航空宇宙局(NASA)のグリフィン長官は、米上院商務・科学・運輸委員会の宇宙・航空・科学

小委員会の公聴会において、2007 年度予算が大統領要求から 5 億 4500 万ドル減額されたことにより、「アレス 1(Ares 1)」による有人宇宙船「Orion」の打上げは、当初計画の 2014 年から 4~6 ヶ月の遅れが予想され、2015 年初めの打ち上げになるだろうと証言した。

3 月 2 日(金)

- インドの 2007 年度宇宙予算、前年度比 6.89% 増
【印】
インド政府は 2007 年度(2007 年 4 月 ~ 2008 年 3 月)の政府予算を公表した。インド宇宙省(DOS)に割り当てられた予算は 385 億 8600 万ルピー(約 8 億 7000 万ドル)で、2006 年度比 6.89% 増だった。

2007 年度予算において新たに設置された費目は主に以下の通り。

- 有人ミッションイニシアティブ: 5 億ルピー(約 1127 万ドル)。自律型宇宙往還機(搭乗員数 2 名)の開発
- インド宇宙科学技術院の設立・運営: 7 億 5000 万ルピー(約 1690 万ドル)。人材育成を目的
そのほか主な増加分として地球観測衛星に 5 億ルピー(約 1127 万ドル、66.67% 増)、災害監視システムに 7 億ルピー(約 1590 万ドル、187.47% 増)等が割り当てられた。

- 韓国政府、「2007 年度宇宙開発実施計画」に 2934 億ウォン支出へ
【韓】
2 月 27 日(火)(現地時間)、韓国科学技術部(MOST)は、同日に宇宙開発推進実務委員会(委員長: 朴永逸 MOST 次官)を開催し、「2007 年度宇宙開発実施計画」を審議・決定し 2934 億

ウォン(約3億1000万ドル)を支出すると発表した。主な実施項目は以下の通り。

- 衛星6機の開発:総額1571億ウォン(約1億6700万ドル)
- 小型衛星打上げ用ロケット「KSLV-1」の開発:957億ウォン(約1億ドル)
- NARO宇宙センター建設:380億ウォン(約4000万ドル)
- 韓国人宇宙飛行士プログラム:25億ウォン(約265万ドル)

3月12日(月)

- ULA社、アトラス5による衛星6機の打上げに成功 【米】
3月9日(金)3時10分(世界標準時)、United Launch Alliance(ULA)社は、ケープカナベラル空軍ステーションからアトラス5ロケットを打ちあげ、アメリカ空軍のスペース試験プログラム(STP-1)の衛星6機の所定軌道への投入に成功した。

STP-1は技術実証を目的とする以下の試験衛星からなるプログラム

- Orbital Express(「ASTRO」及び「NextSAT」の2機で構成され、軌道上補給・整備技術の実証を行う)
- STPSat-1(地球大気観測を行う)
- CFESat(8件の新技術実証と電離層研究を実施)
- Falconsat-3(新型推進システムの試験、大気中での無線干渉の測定を実施)
- MidSTAR-1(TCP/IPを利用したテレメトリ・データ・コマンドの通信技術検証等を実施)

- アリアン5による「Skynet-5A」、「Insat-4B」の打上げに成功
【仏、英、印】

3月11日(日)22時3分(世界標準時)、アリアンスペース社は、ギアナ宇宙センターからアリアン5ロケットを打上げ、英国防省の軍事通信衛星「Skynet-5A」(打上時質量4,630kg)とインドの通信衛星「Insat-4B」(打上時質量3,028kg)の所定軌道への投入に成功した。

3月13日(火)

- 中国COSTIND、科学発展計画を発表 【中】
3月11日(土)(現地時間)、中国国防科学技術工業委員会(COSTIND)は、同国の第11次五年計画(2006-2010年)間で実施される宇宙科学計画を発表した。同計画では6つの目標を示しており、宇宙科学開発の持続的発展に重点をおいている。

6大目標

- 有人宇宙飛行及び月探査プロジェクトの実施
- 硬X線望遠鏡の開発
- 微少重力、生命化学実験目的の回収型科学衛星の打上げ
- 宇宙科学分野における国際協力(ロシアとの火星探査ミッション、フランスとの太陽観測ミッション等)の推進
- 太陽風観測衛星の技術開発(2012年頃に打上予定)
- 宇宙科学関連分野での革新的技術と科学研究の発展